

日本共産党 前杉並区議会議員

X(旧 Twitter)@akikocurry

子ども、くらし、平和



のがき
野垣あきこと
まちづくりカフェ

HPはコチラ



2025 年 10 月号

連絡先 090-9293-8710 ご相談どうぞ！

天沼・本天沼地域の区立施設の充実を

旧若杉小跡地の活用 オープンハウスと意見交換会へ



杉並区は、旧若杉小跡地の本格活用に向け、住民参加のワークショップなどで意見を出し合いながら、検討を重ねてきました。

7月のオープンハウスでの意見

杉並区は、今年7月にオープンハウスを行い、展示した活用方法（たたき台）に対して参加者から出された意見等をまとめました。17ページに及ぶ詳細な住民の声を掲載した「まとめ」は右からご覧になれます。



杉並区が2つの素案を展示します

区は、これらの意見を踏まえ、2つの活用方法（素案）を作成しました。この2つの素案について、住民意見を聞くためのオープンハウスと意見交換会を開催します。

7月のオープンハウスのまとめや地域の

方からは、荻窪消防署天沼出張所が組み込まれることへの疑問や、子どものための施設は大事だが、上荻児童館・上荻保育園の移転はどうか？との意見もあります。

展示パネルを見て意見を届けよう

岸本区政のもとで、区と住民との対話のスタイルが定着してきています。オープンハウスでは、展示を見て、区の職員が直接説明や意見を聞いていきます。

意見交換会は事前申し込みが必要になります。下記の通り、電話かWEB（ネット）でお申し込みください。

◆オープンハウス

10月24日(金)午後1～5時
荻窪タウンセブン前広場
※申し込みは不要です

◆意見交換会

10月25日(土)午後3～5時
旧若杉小学校体育館
定員50名程度
申し込み方法

・WEB 申し込みフォームから▲
・電話 03-5307-0822
※10/15申込〆切



下井草駅周辺まちづくり

下井草まちづくりラボ 旧早稲田通りをもっと安全に！

杉並区は9月27日から、下井草駅周辺のまちづくりを住民と考える「下井草まちづくりラボ」を今年もスタートしました。



今回のまちづくりラボは、昨年から継続して第7回です。テーマは、「旧早稲田通りの安全化」でした。

世田谷区の太子堂・三宿地区でのまちづくりの経験を学ぶ

最初に、区から下井草駅周辺のまちづくりの経過や西武新宿線の連続立体交差事業について説明がありました。

次に、国士舘大学の寺内義典教授から、道路や交通計画に関する講義があり、世田谷区の太子堂・三宿地区の住民参加の修復型防災まちづくりについて学びました。

この地域では、旧国立小児病院跡地を防災拠点とした外周道路の整備、流入交通の制限などの要求による一方通行化を4年半かけて実現しています。

交通規制のためには沿道住民全員の合意が必要なこと、長年まちづくりに取り組んできた地元の方は「時間と忍耐はまちづくりの必要コスト」と話していたことなども印象に残りました。

旧早稲田通りの安全化へ

その後、グループに分かれて旧早稲田通りの安全化に向けて、無電柱化・バリアフリー化・一方通行化・道路拡幅を中心

にメリットデメリットを考えました。私のグループでは道路拡幅はハードルが高いため、残りの3点について考えました。歩道のフラット化でバリアフリーやにぎわい形成が実現すると、沿道の商店はメリットがあるが、沿道住民はどう感じるのか？などの意見が出ました。また、無電柱化のためには歩道幅が2・5m必要ということで、他のグループでも一方通行や歩道の幅の設定、バスルートなどを地図や模型も使い発表しました。

参加者の感想・強い要望も

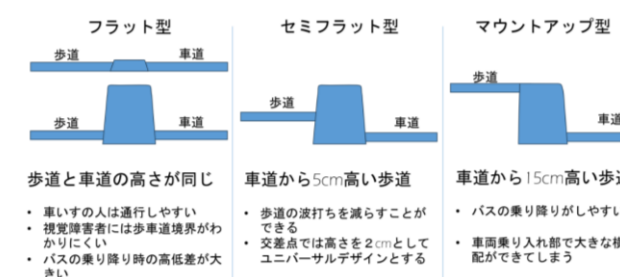
参加者は積極的に意見やアイディアを出し、前向きに交流していました。一方、「ラボでは西武線の地下化の議論がない」「高架化では協力できない」との感想も寄せられています。

次回、第8回のテーマは「駅前広場・交通結節点」なので、西武線地下化の声や線路跡地利用の可能性もみんなで考えていきたいと思いました。



▲あるグループのアイディア

歩道の高さの形態▼



「極右・排外主義とは？」 宮本徹さんを講師に学習会

9月21日、日本共産党杉並地区委員会は、宮本徹前衆議院議員を講師に極右・排外主義についての学習会を行い、私は司会を務めました。

誰もが尊厳をもって生きられる社会に

参院選では自公が過半数割れとなる一方、差別・排外主義を掲げる参政党などが躍進しました。共産党は、極右・排外主義とのたたかいを断固としてすすめることを方針に掲げました。

デマには事実に基づいて反撃を

宮本さんは始めに、極右・排外主義がどのように作られてきたのかを話し、その危険性に対しては事実に基づいて明らかにすることが大事だと強調。

排外主義者がよく話す外国人の医療費について、国民健康保険の加入率は4%だが、医療費の給付は1・39%しかなく、外国人を排除すると日本の社会保障が成り立たなくなること、外国人による犯罪や生活保護も減少していることを紹介しました。

会場・ネット視聴者から続々と質問が

会場からは、世界が同時テロのように排外主義・右傾化になるのはなぜか、SNSの影響、参政党に投票したのはどんな層か、



などの質問が寄せられました。

宮本さんは、SNSの影響としてデマやフェイクが広がりやすいが、その嘘を打ち消す声が届きにくいことがあり、陰謀論や地球温暖化懐疑説など反科学などが広がっていると指摘。新聞が廃れているのは深刻で、みんながリアルに話し合える関係を作っていくことが大事だと話しました。

また、市民のみなさんの抗議行動をリスクペクトしており、もっと多くの人と共同を作っていくことが必要だと語りました。

差別や分断やめさせよう

極右・排外主義は、人類が培ってきた人権や平和を後退させる反動的な役割があり、日本を滅ぼしかねないと感じます。

私の住むアパートにはネパール人も多く住んでいて、みんな勤勉です。よく挨拶をする高校生の男の子は、学校に通いながら、朝と夜にバイトをしているそう。差別や排外主義は許さず、これからも共生していくために共同を広げたいと思いました。

会場には45名、オンラインで26名が参加しました。みなさん、ありがとうございました。学習会の動画は右からご覧いただけます。



党区議団の一般質問 区に教育費の負担軽減を求める

杉並区議会第3回定例会が9月9日から10月15日まで開催されています。党区議団は一般質問で、就学援助制度の拡充など義務教育費の負担軽減について提案しました。

就学援助制度は困窮する子育て世帯を対象とした補助制度で、世帯所得の認定基準生活保護基準から算定されています。

前・田中区政のもと 1,300 人が除外に

2013年に安倍政権が生活保護基準の引き下げを強行し、当時の前・田中区長はこの生活保護改悪を就学援助制度の認定基準にも適用してしまいました。その結果、就学援助の認定者数は2012年の5,811人から、2016年には4,444人へと、4年間で1,300人以上減少してしまいました。

最高裁判決を受け就学援助の拡充を

当時の生活保護基準の引き下げに対して全国で裁判が行われ、今年の6月には厚労省の当時の判断が生活保護法違反だったとする最高裁判決が出されています。

党区議団は、この点を取り上げ、杉並区の就学援助の認定基準を拡充し、生保改悪以前の2012年の水準に戻すことを求めました。また、入学援助金の増額、中学生の修学旅行費等への補助制度の実施を提案しました。

答弁に立った岸本区長は、生活保護基準の最高裁判決について、「社会に与えた影響をまず国が受け止めるべき」、「生活保護受給者の尊厳の回復を含む一日も早い解決が必要であり、必要な費用は全て国が負担すべき」と指摘しました。

教育委員会事務局次長は、就学援助の認定基準について、国の専門委員会では対応が検討されていることなどから、その結果等を踏まえると答弁。また、入学準備金の増額等については、今後の就学援助制度の全般的な見直しをする中で検討すべきものと答弁しました。

国の悪政から区民を守る

安倍政権下での生活保護基準の引き下げは、生活保護世帯だけでなく、子どもたちへの就学援助制度にまで影響を及ぼしています。今後も国の法改正や減額分を遡って支給するよう求めるとともに、前区政によって削減された区の諸制度の復活や改善を目指して頑張ります。



【あきこの部屋】

Podcast
前杉並区議会議員
杉並

野垣あきこと
まちづくりカフェ

NO.1
ポッドキャスト
始めました。

再生 (x)
0:10 / 14:43

ポッドキャスト始めました！

ポッドキャストとは、インターネットを通じて配信する音声コンテンツで、好きな時間に聞けるラジオ番組というイメージです。第1回は、9/9から開催中の第3回杉並区議会に提案されている補正予算について取り上げました。ぜひYouTubeで聞いて、コメントや高評価もよろしくお願いします。